

日本の伝統文化を考える

～もちつき・鬼火たき～

西地区自治協議会主催

地域の方・保護者・子どもたちで行います

いよいよ来週には、14日間の冬休みに入ります。冬休みには、クリスマスやお正月があり、子どもたちにとってはプレゼントやお年玉をもらったり、家族や親戚と過ごす楽しい時間があったりしてとても嬉しいものです。1年の中でも、一番特別な時期です。

西地区では、お正月を迎えるにあたって、西地区自治協議会主催の伝統文化活動を行います。

お正月

もういくつねると お正月
お正月には 凧(たこ)あげて
こまをまわして 遊びましょう
はやく来い来い お正月

もういくつねると お正月
お正月には まりついて
おいばねついて 遊びましょう
はやく来い来い お正月

鬼火焚き(おにびたき)

鬼火焚きの言葉の意味は、国語辞典の大辞泉によれば「鬼火焚き＝九州地方で正月7日に行う火祭り。左義長(さぎちょう)。」と書いてあります。

さらに、ここに出ている左義長の言葉を同じ辞典で調べると、「左義長＝《もと、毬杖(ぎちょう)を三つ立てたところからという》小正月の火祭りの行事。宮中では、正月15日および18日に清涼殿の東庭で、青竹を束ねて立て、これに吉書(きっしょ)・扇子・短冊などを結びつけ、はやしたてながら焼いた。民間では、多く14日または15日に野外で門松などの新年の飾り物を集めて焼く。その火で焼いた餅(もち)や団子を食べると病気をしないと、書き初めの紙をこの火にかざして高く舞い上がると書道が上達するという。どんど焼き。さいとやき。ほっけんぎょ」と解説されています。

年末に「餅つき」をする理由

お正月に飾る「鏡餅」を作ることが理由です。鏡餅や門松、注連縄などお正月飾りは、“年神様(正月様、歳徳様とも)”を迎えるためのもので、新しい年に豊かな実りをもたらしてくれる神様がいらっしゃるという、古くからの信仰に基づくものだそうです。つまり、お迎えする年神様の依り代、神様の居場所となるのが「鏡餅」なのです。だから、銅鏡のように丸いのです。また、年神様は、私たちに新しい年に豊かな実り(幸福)をもたらしてくれると共に「魂(生きる力)」を分けてくださると考えられています。年神様の「魂」が宿った





鏡餅の餅玉をお雑煮などで食べることで「生きる力」を分けてもらうという意味合いもあるそうです。

ちなみに、その年の魂(=餅玉)を家長が家族に分け与えた「御年魂」「御年玉」というのが、お年玉のルーツです。現在はお金に変わってしまいましたが、鏡餅をお雑煮やぜんざいにして食べるのは、その名残だそうです。

なぜ、伝統文化で交流するの？

こう考えてみました。

交流することだけを考えるのならば、伝統文化でなくてもよいのです。今回の3時間の活動に、打ち合わせ数回、事前準備たくさん！下調べ・買い物と、地域のみなさまには大変な苦勞をおかけしています。

伝統文化は、語り継がれ、受け継がれていくものです。親から子へ、孫へと受け継がれて、今なお大切にされるものです。これは、現代の家庭だけではできなくなってきたるものです。だから、地域の方とともにいきます。そうやって、伝統を受け継ぎながらつながりがつくられていく。

これは、地域や家庭・学校が目指すものと同じです。地域の方から、もちのちぎり方を教わって初めてやってみたり、杵(きね)と臼(うす)でつくおもちをその場で食べるおいしさを味わって、喜び合ったりする。このつながりができるのも、今回の活動のよさです。

材料や道具そろえ等、数日前や朝からお手伝いしてきた方がたくさんいらっしゃいます。心より感謝申し上げます。そして、こうやってたくさんの方々の目と手と声がかけて育つ金比良・光海の子どもたちを素晴らしいと強く感じます。

『寄ってたかって西地区の子どもを育てる』それを実現していただく一日です。きっと子どもたちは、この日も温かな愛情を感じ取るはずです。

金比良・光海っ子にとって大切な一日となる12月22日(日)。

さあ、みんなでもちつきに出かけよう！！

スタート 9時

金比良小学校運動場にて



☆光海中生徒会活動 クリーン活動 ……チヨボラ活動



みんなで絆を深め合いながら、自分たちが住んでいる町をきれいにしようと15分間のゴミ拾いを行いました。たったの15分でも、集まったゴミの量に驚きでした。少しだけ地域に恩返しです。